

～府内フリースクールの取り組み～

子どもに多様な居場所を

「フリースクール」をご存じですか？
不登校で学校へ行くことが難しい子ども
の居場所として提供され、その規模や
活動内容は多種多様で全国で約500カ
所を数えます。
今回は、府内でフリースク
ルを運営する2団体の取り組
みを紹介します。



フリースクール
一般に、不登校の子どもに対
し、学習活動、教育相談、体験活
動などの活動を行っている民間
の施設（文部科学省HPより）



●自分らしい過ごし方を

はらいふは、不登校の10代が安心し
て学び、自分らしく過ごせる場所とし
て、高槻市原地区で活動している団体
です。

代表理事の木脇（きわき）さんは、学生の居
場所づくり・不登校支援などの教育事
業に従事した経験から「学校に通えな
い子にこそ居場所が必要」と感じ、平
成30年6月に立ちあげました。

子どもは、お菓子作り・楽器の練習な
ど、自由に時間を過ごします。古民家を
改装した敷地内にはハンモックやピザ窯
があり、活動の選択肢を増やすことで自
己決定をサポートします。

●子どもの思いを大切に

活動に参加するボランティア
アは子どもの考えを大切に
しながら同じ時間を過ごし、
子どもの主体性を育みます。

教員をめざす大学生は、
「子どもに関わる経験を将来
に生かしたい」とボランティアをほ
めました。活動していくうちに、同じ状
況の子どもはいないことに気づき、遊
び相手になる、後ろから見守るなど、一
人ひとりに合わせた向き合い方を模索。
「子どもの変化に気づいた時にやりが
いを感じ、楽しいから続けられます」と
話します。

●子ども時代を楽しんで

フリースクールに公的資金の投入はな
く、利用料は家庭の負担になります。寄付



自由に時間を過ごします(フリースクールはらいふ)



●「ココまな」ならではの場所を

ココまなは、市内の一軒家を拠点に
小中高生を対象に令和3年4月から週
に2回、平日の昼間に活動しています。
代表の土居（どい）倅美（みづみ）さんは、中学校教員
をしていました。生徒と過ごすなかで、
子どもが学校以外の選択肢として「コ
コまな」を選んだことと安心できる場所
の必要性を強く感じ、団体を立ちあげ
ました。

●金言言葉は「無理をしなご」

子どもは、無理をして活動に参加す
る必要はありません。

「人によって学びの形は違う」との考
えから、裁縫や段ボール工作、映画鑑賞
など自分のやりたいことをして自由
に過ごします。

ボランティアも、スタッフということ
を意識しすぎず、参加者のように過ご
すことを心がけながら、材料調達や話
し相手など、多岐にわたって活動をサ
ポート。

自身の不登校経験から、子どもの居
場所に課題意識をもち、運営面にも携
わるボランティアもいます。

ボランティア OSAKA

●地域一体となって

イベント開催時には市の社会福祉協
議会をはじめ、地区福祉委員会などの
関係機関から、イベント費用の提供や
会場の貸し出しなどの協力があり、地
域一体となって活動しています。また、
オリジナルグッズの販売など、新たな取
り組みを日々検討しています。

「子どもが楽しそうに過ごす姿を見
ると力が湧いてきます」と話す土居さ

「ココまな」の活動のようすは、こちらから



ボードゲームに夢中！（フリースクールココまな）

ん。子どもの笑顔を原動力に前進する
「ココまな」の挑戦に、期待が膨らみます。



令和2年12月には、不登校の子ども
を取り巻く社会環境をより良いものに
変えるため、大阪府フリースクール等
ネットワークが結成されています。

府内のフリースクールをはじめとす
る民間団体が学校や行政機関と連携す
ることで、地域一体型の支援体制の構
築を図り、すべての子どもの教育機会
の確保をめざしています。

●復帰ではなく自立

子ども一人ひとりに向き合った柔軟
な活動は、フリースクールの強みです。

一方、利用料の経済的負担や、フリー
スクールの数が少なく地域に通える場
所がないなどの課題があります。

文科科学省によると、不登校児童生徒
への支援の基本的な指針は「学校に復帰
すること」ではなく、「社会的な自立を
めざすこと」に変化しています。

今後、子どもが自分に合った環境で
自分らしく過ごせる第3の居場所とし
てフリースクールの活動が広がること
が望まれます。

地域で活躍する

民生委員・ 児童委員さん

NO.39



よく聞いて
しと見守り
河南町
奥野富美子さん
(民生委員歴13年)

このコラムは、地域で活躍する民生委員・
児童委員(以下、民生委員)さんにスポット
を当て、その方の思いを紹介します。
今回は、地域住民一人ひとりを気遣い、
声かけや見守りを行う奥野さんにインタ
ビュー。活動で大切にしていること、今後
の抱負について聞きました。

●話をよく聞いて打ちとける

中学校の教師を定年より早く退職した
後、民生委員の話をいただきました。この町
は結婚してから住みはじめたため、地域と
の関わりが少ない状況でした。就任後は、
見守りリストに載っている世帯に訪問する
機会を増やして共通の話題で打ちとけ、顔
を覚えてもらえるよう努めました。

今では地域の方から声をかけてくれる
ことが何よりうれしいです。守秘義務を守り、
安心して相談してもらえるように心が
けて活動しています。

●地域力を生かしてそっと見守る

一方で家族の問題を周囲に相談したく
ない家庭も多く、関係づくりや見守り方に

悩んでいました。障がいのある方を家族で
ケアしているケースでは、回覧板をきっか
けに地域住民と協力し、家族のキーパー
ソンと“気軽に話せる相手”としての関係づ
くりを行い、地域全体で見守っていきけるよ
う活動しています。

また、認知症の方がいる家庭では、見
守っているうちに介護が必要な状況に気
づき、関係機関と現状を共有。デイサービ
スなど適切な支援へつなげることができ
ました。

●必要だから行動する

コロナ禍以降、スクールバスに乗る子ど
もたちの見守りをはじめました。きっかけ
は、分散登校で見送りができない子どもがひと
りでバス停に来る姿に心配になったから。
必要と感じたら、迅速に行動するように
しています。

河南町は高齢化が進んでおり、特にひ
と暮らし高齢者の割合が高くなっていま
す。これからも、誰もが暮らしやすい地域
にするため、声かけや訪問をさらに積極的
に行っていきたいです。